［釈文］

老まづ　常磐寿無事大夫直伝

「そも〳〵なまづのあれたること、ばんしやくにおされ、諸々
八方のわざハひ数千人の見ごりをなして、古今のうれひをますしゆんの時候のいかりのとき、てんにハかにかきくもり、大地しきりにゆりしかバ、くらとかべをふせがんと、小やぶのかげによりたまふ、此おりまち〳〵、はいほくとなり、ねだをおり、戸をかさね、おのがのきばをふさぎて、そのはりをもたささりしかハ、むざとさいごと入
寂のおわり、むだ死たまひしより、なまづをあやふと申とかや、かやうにすでかき間違に、身を悔ふ民のうれひをバ、きミのなさけでおすくひの米の五合、ふるかべのほこりたへせぬ天変地ごく、どう、〳〵〳〵と、ミくらのつちにうたるゝものこそせつなけれ

安政二乙卯年十月二日

新吉原町仮宅場所付

浅草之分
一、東仲丁
一、西同
一、花川戸丁
一、山の宿
一、聖天町
一、同瓦丁
一、山谷丁
一、今戸丁
一、馬道
一、田町
一、深川仲丁

深川
一、永代寺門前仲丁
一、同東仲丁
一、山本丁佃丁
一、松村丁
一、八幡御旅所門前丁
一、続御舟蔵前丁
一、八郎兵衛屋敷
一、松井丁　一、入江丁　一、長岡丁
一、陸尺屋敷　一、時ノ鐘屋敷
一、常ハ丁

げい者
「おめにかけます軽わざハ、野中の一本すぎてござります

なまず
七分三分のかね合、〳〵